

たまシネマ通信 vol.5

—Contents—

☆2月20日（土）『田中さんはラジオ体操をしない』



- ・ 田中さんってどんな人？
- ・ 田中さんは何故ラジオ体操をしないのか？
- ・ 世界の抗議活動から—イギリス、ブライアンの場合
映画『ブライアンと仲間たち パーラメント・スクエアSW1』より

☆4月24日（土）は映画『台湾人生』上映会！

☆第20回映画祭に向けて新実行委員募集開始！
3/22（日）に説明会開催します。



◆発行：TAMA映画フォーラム実行委員会

◆お問合せ：〒206-0025 多摩市永山1-5（ベルブ永山） 多摩市立永山公民館内

TEL 080-5450-7204（直通） 042-337-6661（公民館） FAX 042-337-6003

ホームページアドレス： <http://www.tamaeiga.org/>

田中さんってどんな人？

田中哲朗

1969年に沖電気工業株式会社(現OKIセミコンダクタ株式会社)の入社、八王子事業所に配属される。しかし、会社が取り決めた自由時間でのラジオ体操に参加しなかったところ、補助的な仕事しか与えられなくなり、マイナス査定をうけるようになった。また、組合員として会社に対する労務政策の批判を行うと左遷命令が出されたが、これを拒否。すると1981年に解雇通告を受けた。退社後、同社八王子工場の門前で毎朝30分の抗議行動を20年以上繰り返し(企業ファシズムを批判する内容を歌う)、解雇された日にちなみ、毎月29日には終日の座り込み行動を実施している。

その地道な活動は、海外メディアを初めとして様々なメディア(北海道新聞、朝日新聞、毎日新聞、東京新聞、JapanTimes、Brutus、週刊ダイヤモンド、他)で取り上げられている。

2005年、「第17回多田謡子反権力人権基金」が授与された。同賞は、権力闘争や人権擁護に尽力した多田謡子弁護士にちなんで設立されたものである。

退社後、アマチュアのシンガーソングライター(自称シンガーソングファイター)としてソロ活動を開始。主な生計手段はギター教室の運営である(その広告を沖電気八王子工場門前の電柱に出している)。「いじめ」、「K君の選択」などの楽曲を書き上げており、インターネット上でオンライン配信を開始(iTunes Music Storeの開始からさかのぼる事、約5年前より)。

(ウィキペディアより抜粋)

田中さんは何故ラジオ体操をしないのか？(山形国際ドキュメンタリー映画祭あいさつ文より)

日本にはブラック企業と呼ばれる企業があります。いじめなどの人権侵害を行い、そのやり方は宗教的なカルトにも似ていると言われます。沖電気は30年前の大量首切りからこの病気にかかりました。私はある日、ラジオ体操を強制されました。しかし私はラジオ体操をしませんでした。社員を会社の言いなり人間、いじめに荷担する人間に変えるために踏み絵が使われます。わたしがラジオ体操をしない理由はそれが踏み絵だからです。この映画のキーワードはその踏み絵です。また、学校での日の丸君が代の強制は国家権力が、教員、国民に対して行っている踏み絵です。この映画に出てくる根津公子は、君が代に起立しないという理由だけで、6ヶ月の停職にされながら、今も闘っています。

この強制は、国家のいいなりになる人間を作り、日本をカルト的、軍国主義に導く危険性を含んでいる。日の丸君が代の強制に反対して闘う人は日本が嫌いなのではない。むしろ誇りをもてる国にしたいと考えているからこそ闘っています。日本社会に存在する踏み絵は人間性を破壊するだけではなく、世界の平和を脅かす。危険なものだと考える。だから我々はそれを察知し警戒しなければならない。この映画がそれを防ぐことに役立てばと思います。最後に、私にエキサイティングな人生を与えてくれた沖電気に感謝したいと思います。映画をお楽しみ頂ければ幸いです。

世界の抗議活動から—イギリス、ブライアンの場合(映画『ブライアンと仲間たち パーラメント・スクエアSW1』より)

2001年からテロ撲滅戦争に抗議して、イギリスの国会議事堂にあたる「ビック・ベン」前にてテント生活をしているブライアン・ホウ。(住所はパーラメントスクエアSW1で郵便物も届く)警官からの妨害行動で足を骨折しつつも、抗議を続けるブライアンは田中さんの姿と重なる。

この映画で日本人の早川監督は黒田清JCJ新人賞を受賞。映画は、自主上映会を中心に日本全国に広がっている。

- 映画『ブライアンと仲間たち パーラメント・スクエアSW1』作品紹介
- イギリス反戦運動の生けるシンボル、ブライアン・ホウと彼のサポーターたちを、約1年半に渡って追い続けたドキュメンタリー。
- 表現の自由、デモ活動の権利を奪おうとする政府や警察に、たぐいまれなる勇気とユーモアで対抗し続ける彼ら。
- その姿は、観る人全てに勇気と希望を与える…！



【予告】4月24日(土)は映画『台湾人生』上映会！



作品紹介

台湾が日本統治下にあった時代に青春を送った5人の台湾人のいまを追う。霧に包まれた茶畑で茶摘みに精を出す楊足妹さん(1928年生まれ)。故郷の友人たちを訪ねる旅に出る台湾原住民出身の塔立國普家儒濠さん(1928年生まれ)。地元の公学校(小学校)の同窓会で威勢よく校歌を歌う陳清香さん(1926年生まれ)。元日本兵でボランティア解説員として台湾の歴史を伝える蕭錦文さん(1926年生まれ)。日本人教師への感謝の念を抱き続ける宋定國さん(1925年生まれ)。舞台を、台湾東部の花蓮縣瑞穗郷、台北、高雄、南部のクスクス村、基隆、日本の千葉県鎌ヶ谷市に移しながら、彼らの日々の暮らしの様子を交え、日本統治時代、戦後の国民党独裁時代を経て現在に至るまでの人生をインタビューで振り返る。